



宇宿商店街のフィギュアなどが並ぶ店で、PRビデオ制作のための資料写真を撮る慶応大の学生ら

## 「市電を降りたくなる街」

鹿児島市・宇宿商店街の街おこしに一役買おうと、慶応大環境情報学部の学生ら約20人が17日、同商店街を訪問。PRビデオを制作する社会調査実習を行った。

実習を行ったのは同学部の加藤文俊准教授(四六)の研究室メンバー。コミュニケーション論を学ぶ同研究室は、各地の住民への取材活動を通して学生に「人とかかわる力」を養ってもらおうと、二〇〇四年から電車中つり広告やPRビデオなどを制作してきた。これまでに北海道函館市や香川県坂出市などで行っている。同准教授は知人を通し

# よそ者の視点で 宇宿商店街PR

## 社会調査実習 慶大生ビデオ制作

て同商店街振興組合の河井達志理事長を知り、実習を決定。同商店街の振興策に協力する鹿児島国際の学生も加わり、「市電を降りたくなる街」をテーマに一分間PRビデオ制作に取り組んだ。四班に分かれた学生たち

は商店街を歩き、店主と話しながら、「入り口に商店街を知らせるゲートがあってもいい」「なぜこんなところに神社が」など疑問や感想をメモ。周囲の風景や店の様子をカメラに収めていた。四年生の天野将仁さ

08.5.18 (日)

鹿児島市

人(三三)はこの商店街は楽しいと思ってもらえるような作品にしたい」と話した。  
加藤准教授は「多くの人と話をし、よそ者の視点で、地域に隠れた財産を拾い出してほしい」。河井理事長は「完成したビデオは商店街のPRに、有効に使ってほしい」と話していた。